

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和50年1月20日発行(毎月14日発行)
物性研究 第23巻 第4号

vol. 23 no. 4

物性研究

1975 / 1

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論し、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会、国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、レヴュー、コメント、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行われません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認められたものについては、改訂を求め、また掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するとき、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いとして下さい。

投稿規定

1. 本誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。原稿は400字詰原稿用紙を使用し、原則として30枚以内とします。30枚を大幅に越える場合は、内容の概略、決定の頁数を添えて編集部へ御申し出下さい。
 2. 数式、記号の書き方はProgress Journal の投稿規定に準じ、ミスワリが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛らわしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシヤの指定を忘れないようにし、 π と0(ゼロ)、 m と n と ν と θ と σ と ω と μ と ν と λ と γ と δ と ϵ と ζ と η と θ と ι と κ と λ と μ と ν と ξ と η と θ と ν と ν 等が一番間違いやまい。
 3. 数式は各行にわたって大きく書いて下さい。
 4. 1行以内になさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
 5. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らぬ図(13cm×19cm)は原則として著者に返し、書き改めていただく予定です。
 6. 投稿後の原稿の訂正はできる限り早急に行うようにして下さい。
 7. 別刷は原則として作りません。どうしても別刷が入手の場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、現金で納入していただきます。
(郵券による受付はいたしません。)
- p : 物研出来上り頁数
 x : 別刷所要部数
 a : 別刷1頁の代金 (3円)
 b : 製本代 (別刷1部につき) (30円)
- 別刷代 = (ap + b) × 送料
- 別刷代金は別刷を受とってから、1か月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。
8. 原稿締切日は毎月20日(原則として)次号発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し、討論し、あるいは、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会、国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、レヴュー、コメント、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行われません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認められたものについては、改訂を求め、また掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するとき、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いとして下さい。

投稿規定

1. 本誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。原稿は400字詰原稿用紙を使用し、原則として30枚以内とします。30枚を大幅に越える場合は、内容の概略、決定の頁数を添えて編集部へ御申し出下さい。
 2. 数式、記号の書き方はProgress Journal の投稿規定に準じ、ミスワリが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛らわしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシヤの指定を忘れないようにし、 0 (ゼロ)、 n と n と n と 0 (エロ) と 1 (イチ) と 1 (イチ) と \times (カケル) と ν と ν 等が一番間違いやまい。
 3. 数式は各行にわたって大きく書いて下さい。
 4. 1行以内になさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
 5. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らぬ図(13cm \times 19cm) は原則として著者に返し、書き改めていただく予定です。
 6. 投稿後の原稿の訂正はできる限り早急に行うようにして下さい。
 7. 別刷は原則として作りません。どうしても別刷が入手の場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、現金で納入していただきます。
(郵券による受付はいたしません。)
- p : 物研出来上り頁数
 x : 別刷所要部数
 a : 別刷1頁の代金 (3円)
 b : 製本代 (別刷1部につき) (30円)
- 別刷代 = $(ap + b) \times$ 送料
- 別刷代金は別刷を受とってから、1か月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。
8. 原稿締切日は毎月20日で原則として次号発行誌に掲載されます。

ニュース

1974年 10月 [東大物性研]

土曜輪講

- 10月5日 「F-中心緩和励起状態のバイブロニックな問題」
菅沼洋輔氏 (物性研)
- 10月26日 「非平衡系におけるスピン・コヒーレント表示」
柴田文明氏, 高橋慶紀氏 (東大理)

談話会

- 10月28日 「高圧下の物質及び分子相互作用」
B. Vodar 氏 (フランス国立科学研究センター高圧研究所)

1974年 11月

土曜輪講

- 11月2日 「Anderson Hamiltonian の擾動展開」
山田耕作氏 (物性研)
- 11月9日 「NMR in Superconducting Fine Particles」
曾根純一氏 (東大理)
- 11月30日 「非平衡系における extension property, ゆらぎ, 非線形応答」
鈴木増雄氏 (東大理)

談話会

- 11月8日 「加成性のある配位子場と, ない配位子場」
C. E. Schäffer (H. C. Ørsted Institute, コペンハーゲン大)
- 11月11日 「固体における共鳴光学過程」
榎田孝司氏 (物性研)
- 11月25日 「内殻励起における電子相関」
菅野 暁氏 (物性研)

1974年 12月 [名大理・物理]

ニュース

物性談話会

- 12月3日 “Magnetism and High Pressures”
C. N. R. S. 磁性研究所 Prof. D. Bloch

物理教室談話会

- 12月3日 “物理と数学”
山内恭彦氏
- 12月7日 “動力学的回折理論における分散面の性質”
三宅静雄氏

S研・中野研合同コロキウム

- 11月18日 “金属微粒子に於る格子振動と電子”
長岡洋介氏
- 12月16日 “剛体球系での固・液転移”
本田勝也氏

1974年 10月 [東大教養]

金曜コロキウム

- 10月4日 Peierls Instability and electron correlation
斉藤氏 (東大教養・物理)
- 10月25日 KH_2PO_4 型強誘電体の動的性質について
高田氏 (東教育大・理・物理)

教室談話会

- 10月22日 非線型波動とリリトン
戸田盛和氏 (東教大光研)

1974年 11月

金曜コロキウム

- 11月1日 生体高分子の構造と機能発現の関連性
今堀氏 (東大理・生化)

- 11月8日 電子相関 (Singwi の近似について)
有沢氏 (東大教養・物理)
- 11月15日 Helix-Coil 転移と核酸のになう情報
伏見氏 (東大理・物理)
- 11月22日 Atomic Coherent representaion
柴田氏 (東大理・物理)
- 11月29日 半導体における電子正孔液体
森垣氏 (物性研)

教室談話会

- 11月12日 Black-hole の宇宙物理学
佐藤文隆氏 (京大基研)

プレプリント案内

[東大理・物理・久保研]

- (218) 21. Kiyoshi KAWAMURA
Overshoot of Currents in a Diffusive System and Nonsteady Nucleation
- (219) 21. Tsuneya ANDO
Theory of Cyclotron Resonance Lineshape in a Two-Dimensional Electron System
- (220) 21. Akio KOTANI
Theory of the Incommensurate Sinusoidal Spin-Density-Wave in Chromium and Its Alloys
- (221) 21. Nobuhiko Saito
Fluctuations in Chemical Reactions around the Steady States
- (222) 30. G. M. Carneiro and C. J. Pethick
SPECIFIC HEAT OF A NORMAL FERMI LIQUID.
II. MICROSCOPIC APPROACH
- (223) 30. F. E. Rybaczewski, F. F. Garito and A. J. Heeger
Nuclear Spin-Lattice Relaxation and Local Susceptibilities in Tetrathiofulvalene Tetracyanoquinodimethan
- (224) 1. C. S. Jacobsen, D. B. Tanner, A. F. Garito and A. J. Heeger
Single Crystal Reflectance Studies of Tetrathiofulvalene Tetracyanoquinodimethan
- (225) 1. Zoltán RÁCZ and Malcolm F. Collins
A Vacancy Mechanism for Ising Critical Dynamics
- (226) 1. Kazumi Maki and Chia-Ren Hu
MAGNETIZATION OSCILLATION IN THE B PHASE OF SUPERFLUID ^3He
- (227) 1. Kei Yosida and Kosaku Yamada
Perturbation Expansion for the Anderson Hamiltonian III
- (228) 1. Helen Au-Yang and Michael E. Fisher
BOUNDED AND INHOMOGENEOUS ISING MODELS II.
SPECIFIC HEAT SCALING FUNCTION FOR A STRIP

- (229) 9. Shigetoshi Katsura
Magnetic Properties of the Random Mixture of the Classical Heisenberg Spins
- (230) 9. Shuko Washimiya and Tsuyoshi Yamaguchi
Exciton Absorption Lines during Spin Reorientation in Antiferromagnetic YCrO_3

[広島大理・川村研]

preprint list (49.11.17-19)

- 49.11.26 Yasushi Wada
Magnetization of Pure Type-II Superconductors
- 49.11.26 Kei Yoshida and Kosaku Yamada
Perturbation Expansion for the Anderson Hamiltonian III.
- 49.11.27 T. A. Alvesalo, H. K. Collan, M. T. Loponen, O. V. Lounasmaa, and M. C. Veuro
The viscosity and some related properties of liquid ^3He at the melting curve between 1 and 100 mK
- 49.11.29 Hazime Mori
Stochastic Processes of Macroscopic Variables
- 49.12.9 Funita, Toshimitsu
Superfluidity of Liquid He^3
- 49.12.19 Yoshihiro Kuroda and A. D. S. Nagi
Paramagnon and the BCS State in He^3
— Effect of a Magnetic Field —
- 49.12.19 Yoshihiro Kuroda
Paramagnon and the BCS State in He^3 II.
— Erratum —

[東北大・工・応物・桂研]

Takashi Tsuchiya and Nobuhiko Saito
The Ising model on the Cayley trees

プレプリント案内

Nobuhiko Saito

On the fluctuation in a system far from the equilibrium

Nobuhiko Saito

Fluctuations in chemical reactions around the steady states

Bernard C. Gerstein

Thermal and magnetic behavior of one dimensional magnets

Helen Au-Yang and Michael E. Fisher

Bounded and inhomogeneous Ising models II. Specific heat scaling function for a strip

Tsuyoshi Yamaguchi

Magnetization process in antiferromagnetic Ising system $D_y C_r O_3$

Shūkō Washiyama and Tsuyoshi Yamaguchi

Exciton absorption lines during spin reorientation in antiferromagnetic $Y C_r O_3$

Ryuzo Abe

Scaling function for critical scattering in $1/n$ expansion. I

— Consistency with ϵ expansion —

Shinobu Hikami and Ryuzo Abe

Spontaneous magnetization of n-Vector model with short-range interaction in $1/n$ expansion

Third international colloquium on advanced computing methods in theoretical physics
Marseille, June 25–29, 1973 Volume I

Third international colloquium on advanced computing methods in theoretical physics
Marseille, June 25–29, 1973 Volume II

物性小委員会議事録

1974年 9月21日(土) 1:00~7:30 PM

出席者 宮原, 中野, 齊藤, 横田, 勝木, 和田, 豊沢, 佐々木, 真隅, 白鳥, 芳田,
長岡, 近, 森田, 山下, 目片

報告事項

1. 選挙関係(中野)

○物性研共同利用施設専門委員

百人委員が選挙し2月13日開票の結果下記の9氏を物性研に推薦した。

上川友好(山形大理), 真隅泰三(東大教養), 間瀬正一(九大理),

中山正敏(九大教養), 三井惟靖(北大理), 益田義賀(名大理),

伊達宗行(阪大理), 川村 肇(阪大理), 中野藤生(名大工)

(物性研ではこの決定通りに委員を委嘱)

○基研研究部委員

百人委員が選挙し2月22日開票結果を基研に報告したところ, 上位得票者の下記
5氏に決定した。

山田鏑二(岐大教養), 守谷享(物性研), 森 肇(九大理), 三輪浩(阪大理)

長岡洋介(名大理)

○物性研協議委員会委員

物小委委員の選挙により7月31日開票を行なったが, 最下位が同数得票であった
こと, 宮原氏が辞退されたことのために再投票, 8月19日開票の結果下記の5氏
を物性研に推薦した。

久保亮五(東大理), 松原武生(京大理), 伊達宗行(阪大理), 横田伊佐秋

(新大理), 大塚泰一郎(東北大大理)

以下の議論があった。宮原氏の辞退は結果を知った者だけが辞退できたという点で問題

資料

(三輪)との指摘にたいし、今後は選出された人に連絡し内諾を得てから推薦することとなった。宮原氏の場合東大の定年規定(60才)に触れるという心配にたいしては、外部から選ばれる委員には適用されないとの説明が物性研所長からあった。

最下位が多数な時のやり方を考慮すべきだ(中野)、前回の物小委の選挙の時、物性グループの各人が有権者である百人委員に対し、その要望を伝える機会があることが絶体に必要だという議論があったが、上の諸選挙ではそのような機会がなかったにもかかわらず同じ議論がでなかったのは理解に苦しむ(和田)との意見がでた。後の問題については、物小委と他の委員では選挙の内容が異なる(宮原)、時期が決まっている(芳田)、問題と考える人が異議を出すべきだ(白鳥)等の反論があったが、今後選挙方法は精神に照して再検討、再整備しなければならない(中野、宮原)ということになった。

2. 会計報告(真隅)

科研費総合班から1.3%の比率で分担金を出してもらっているが、この比率は変えていない。班によっては事情によりこれ以下のところもある。

収入を分担金におんぶすることはよくない。物性グループからの会費でやるべきだ。(佐々木)、物性研まるかゝえも考えられるがよくない(芳田)、物性研連を作るべきだ(佐々木)、単発的議論に終らないため学会の時に物小委をやると費用をそれほど使うことなく回数を増やせる(森田)等の議論があったが、決算と予算はそのまま承認された。

3. 特定研究「物性の制御」(芳田)

初年度の9名のうち4名(芳田、伊達、豊沢、沢田)が残り、物小委で推薦した新委員5名(上田_{正康}、森田、真隅、安達、可知)を加えて9名で審査した。配分の精神は初年度と同じである。申請金額に対して配分金額は1/6、件数では1/4であった。文部省が保留金を戻す方針なので補欠に配分する。総括班(代表:芳田)は研究連絡、研究会のためで小人数の研究会をいくつか計画しているので提案を待っている。設備が90%以上の要求は文部省が認めないのにそのような申請がある。書類不備として書直してもらった例もある。

地方大についてのデータ，特に応募状況について知りたい（勝木）という要望があった。

審議事項

1. 物小委旅費（真隅）

文部省の旅費基準に従っているが，日当は1,500円としたい。松本からは1泊しないと無理だ。仙台，新潟等は無理すれば日帰りできるが落ち着いて議論するために宿泊料を支給したい。

この提案に対して任意ではあるが1.3%の分担金を目途と考えると40万円程度になるので落ち着いて議論できるよう配慮することが必要（芳田）という議論があった。予算が許せば回数も増やしたい（宮原），分担金を1.3%固定せず必要額を請求すべきだ（芳田）という意見にたいして不定な要素が多いので実際上困難（宮原）という反論があったが，委員をどこかの班に属させれば直接旅費が支払えるので手続的に簡単（芳田）という意見もあった。

結論として日当1,500円，都内委員にも旅費を支給し，仙台，新潟の委員には宿泊料を支給することとなった。

2. 次期物性グループ事務局の選定（和田）

物性グループ事務局の交代時期なので選定を頼みたい。必ずしも地方大で引受けられないことはない。

委員長が候補について案を作るが事務局も引受け手を探す努力をする。

3. 特定研究の審査員の選定

文部省の方針は必ずしも半数交代ではない（芳田），今までの議論が生きることが必要，誰か中心になる人が残って欲しい（森田），物小委の委員が入る方がよい（芳田）との議論の後，半数交代を原則とすることを確認した。4名以上を選ぶと文部省が作意

資料

的に選ぶ危険性があるのでさげたい。病気の可知氏が欠席しても差支えないように人選したい(宮原)ということで候補の名をあげて議論の後投票結果、佐々木、長谷田、鈴木平、豊沢の4氏が選ばれた。本年度に続いて残る委員は真崎、森田、上田、安達、可知の5氏である。

審査結果を教えてもらえると参考になる(白鳥)という要望にたいして勝木氏の支持があったが、非公開である(宮原)、義務づけられると困る(佐々木)という反論があった。

4. フォトンファクトリー(P.F.)計画

前回の物小委できびしい批判があったので物研連はすぐには態度を表明せず結晶研連と合同の検討小委員会に検討を依頼した。体制が問題であると主張が計画書に反映された。INSORとP.F.は独立だがINSORの悪いところを引継いでは困る。四部では最終的には賛成なので、順調にいけば、この秋の総会で提案、可決され学術会議の勧告案となる見込であるとの宮原委員長の経過報告があった。

豊沢氏から検討小委員会について報告があった。3月1日に物研連で組織され、これまで4回の会合と、シンポジウムを行ない、7月1日に物研連で報告した。委員は物研連より小野(委員長)、加藤、西川、豊沢、山口、尾中、結晶研連より高良、星埜、竹内、飯高、INSORより佐川の各氏がでている。以下の事項を検討している。(1) 現存の研究所、特に核研との関係。高エネルギー物理グループは理念に賛成し、建設に協力はするが、高エネルギー実験としてはエネルギーが不足するので独自の将来計画と考えていない。核研の高エネルギーグループの1/3はP.F.に移る。(2) INSORグループ、物性研との関係。INSORは無関係で核研のESの寿命がきたらinjectorを取替えて研究を続けるという方向と、INSORグループが発展的にP.F.になるという方向があるが、いずれにせよP.F.計画はINSORグループにも利益となるだろう。(3) 結晶研との関係。統一見解はないが、P.F.ができるなら結晶研の発足が遅れてもやむを得ないという意見もある。(4) 研究内容とその意義、シンポジウムで検討したか、物性関係としては回折、吸収、反射、放出といった分光学的研究が中心となる。学問的議論は物性関係が最も遅れている。(5) 建設関係、共同利用、体制問題、設立趣意書案に

よると、文部省直轄の共同利用研究施設で公私立機関の研究者の利用も考える。所長の下に運営協議会と Schedule 委員会をおく。運営協議会は建設期には所内と研連推薦の所外の委員各 13 名で構成し、定常期には利用グループからの代表で構成する。

以上の説明の後議論に入った。予算は相互に関連しているので景気のよい計画におされて物性研究者が黙っていることはない(佐々木)。文部省は経常費の増加を無視し、巨大計画のみをつまみ食いしている(山下)という意見にたいして、学術会議は基礎科学振興の上から経常研究費に予算 2/3 をまわすべきで一部をつまみぐいしてはいけないと主張している(宮原)との説明があった。物性グループ全体として短期研究会等を利用して議論すべきだ(芳田)、何故 INSOR グループが積極的でないのか理解できない(山下)、魅力的な光源だが物理を書き換えることにはつながらないにもかかわらず他の分野を含めた全体の将来計画の議論もしないでこのような計画だけが独走するのは問題である。それに、50 R 分光学は大切なものの一つだが現在の日本の INSOR グループの仕事は評価できない、装置でなく人が問題だ(真隅)という INSOR グループにたいする批判が述べられた。さらに高エネルギーグループは自分達の計画とは考えないというが、予算 150 億の仕事がそのような考え方でできるであろうか。サービスの約束が続く保証があるか、(和田)核研の人でも装置の製作は必ずしも安心できない、(佐佐木)等高エネルギーグループに対する不安感も述べられた。結局 P. F. ができる以上物性研究者がそれを利用しない手はない(芳田)という意見と、社会的責任からいってもこのような問題の多い現在の計画に安易にのるべきでない(真隅)という意見に分かれた。

5. 物性研究体制と将来計画

P. F. 以外にも長い目でみて考えるべき重要な問題がある、(真隅)何故大きい大学に金と人が集中するかといった問題を考える上でも物性研究の実体を調べることを提案する。(佐々木)第二物性研を作ろう(和田)等の意見がでたがまとまった結論は出なかった。

6. 経常研究費問題(勝木)

資 料

準備されたコピーを配るだけで議論する時間はなかった。

審議事項の4, 5, 6は継続審議とし, 近いうちに物小委をもう一度開催することになった。(10月15日に開催した。)

(目片)

編 集 後 記

ここしばらく原稿不足に悩まされる事なく編集の仕事も順調に行くかと思われましたが、久しぶりに新投稿無しの月を迎えました。已むを得ず、「生態学の将来」の座談会に添えて寄せていただいた島津さんの貴重な原稿を放出せざるを得ない事になりました。このような時には編集会議でも「物性研究」誌の存在意義や将来に対する悲観論が出ることとなります。しかしこれまで平均月2編程の投稿があったので Fluctuation として零になる月があってもおかしくはないと考えて自ら慰めている次第です。

本誌の編集にかかわりあうようになってから、本誌の一つの使命は情報交換を盛にすることにあると考えて講義ノートや基研以外での研究会の報告を出す事に力を入れたり、又実験グループとの対話を試みたりして来ましたが、やりすぎても今度は忽ち財政的にピンチに立たされます。まさに今の不況とインフレの谷間にある世界経済のようにあちらを立てればこちらを犠牲にしなければならず選択の余地が大変狭いことを痛感しております。

編集会議で出された一つのアイデアとして新しくレター欄を設けることにしようと思います。即ち、一つのまとまった論文を書くとなると忙がしいし憶却である場合、何か云いたい事を気軽に書けるような場所を提供して本誌のインフォーマルな性格をより鮮明にしようと呼ぶわけです。長さはレターとして常識的な範囲では自由ですからどしどし投稿して下さい。

(K. K.)

物 性 研 究

第 23 卷 第 4 号

1950年1月20日発行

発行人 川 崎 恭 治
京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所
京都市上京区上長者町室町西入
TEL (441) 1659 (431) 4789

発行所 物性研究刊行会
京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

購読規定

個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月未までにはなるだけ1年間分会費を御支払下さい。なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、1000円をお支払下さい。

1年間の会費

1st volume	2,340円
2nd volume	2,340円
	計4,680円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分づつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意となるべく振替用紙を御利便の上御納入下さい。なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合、当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっておりますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合、個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合、住所、勤務先の変更等送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費 学校、研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 4,380円、1冊730円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なの分をお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡も発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物性研究 23-4 (1月号) 目次

◎論文予么生態学	島津康男	198
◎ニュース		212
◎プリント案内		215
◎資料	物性小委員会議事録	218
◎編集後記		221

物 性 研 究 23-4 (1月号) 目 次

◎論文予么生態学	島津康男	198
◎ニュース		212
◎プリント案内		215
◎資 料	物性小委員会議事録	218
◎編集後記		221